

2021年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名: わん！～WAN～

活動名: よさこいを通じて地域宣伝活動・若者コミュニティ創出・祭りの文化継承

★ 団体紹介 (結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等)

わたしたちは、山口県下関市を拠点としたよさこいチームです。

◎結成時期:2013年12月

◎現時点(2021年12月末)の構成メンバー:23人

→メンバーは山口県全域・福岡県全域・広島県広島市・大阪・静岡・東京など各地に居住しており、20代のメンバーを中心に活動している。

◎活動目的

①地域活性化のための活動

⇒山口県内外のお祭りに積極的に参加し、山口県をPRしたり、よさこいの力で地域活性化を目指す！

②子供たちの未来のための活動(①の延長線)

⇒イベントや祭りを無くさない。よさこい祭りの中で、子供たちと一緒に踊る機会を設ける。

よさこいという素晴らしい日本の伝統を未来につなぐ。

③学生の未来のよさこい環境づくり！

⇒他チームへの練習指導や振付提供などを通して、山口県内外のよさこいチームのレベル向上！

◎わん！～WAN～が考える地域活性化

《地域活性化＝町おこし＝人おこし》

・町をおこしているのは、40～50代の地元の方(商工会議所の方々など)

次の世代の若者が「町おこしの心」を理解して、その町に生き続けるのか？

⇒「町をおこしたい！」と思えるマインドづくりが大事

・よさこいを通じて、町おこしの方々と触れ合う機会を作る。

地域の魅力や町の力を感じて、「この町のために何かしたい」という人を作る

⇒自分たちだけではなく、各地のよさこい人を通じて、高めあう関係性も築くことができる

《県外出身学生が山口県へ定住化》

・山口県内の大学生は県外出身学生。

山口県に魅力を感じて、山口県に卒業後も残ってくれたら良いし、

それが若い力やエネルギーが大きくなり、町おこしにつながる。

・よさこいを通じて、学生たちと触れ合ったり、就活につながる関係を創出

⇒山口県に残ってもらうきっかけになる

・山口県の学生のよさこいチームのメンバーの中には、社会人になってもよさこいを続けたくて、

山口県に残る例も多数あり。わん！メンバーも半数以上は山口県外の出身。

好きな仕事もしながら、よさこいを続けて、地域のために活動ができています。

・学生のころから、山口県の地域活性化のために動く「熱い思い」に触れてもらい、

山口県のために活動してくれる若者を残す活動をしていく。

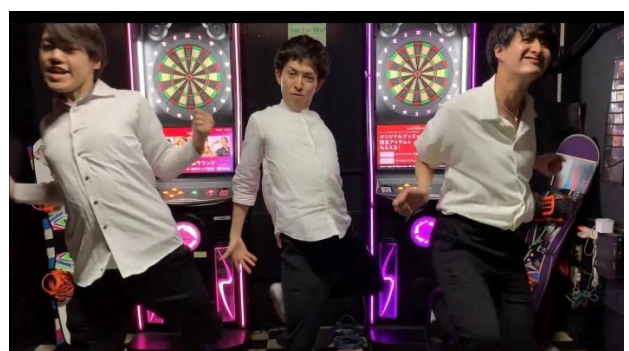
★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

【地域活性化のための活動】

1. 2021年3月 「九州がっ祭」のオンライン開催へ参加し、地域紹介動画を配信
よさこい祭りが開催される観光地や会場をレポート形式で紹介しながら、コロナ禍で容易に行けなくなった場所を巡って地元 PR 動画を作成した。



2. 2021年4月 メンバー居住区域ごとに動画撮影（背景や撮影地は観光名所や、飲食店内で撮影）



3. 2021年4月 広島県福山市よさこい新チーム「ふくびじん」へ振付指導・お披露目協力参加
振付作成・練習指導を一任している福山市のチームさんの初演舞へ協力参加。
よさこいを初めて体験する方も多いチームさんの中で一緒に参加することで、よさこいの楽しさや魅力を伝える先駆者となれるように働きかけることができた。



4. 2021年7月 広島県福山市開催イベント「JIN FESTA」へ参加

福山市のチームと今までほとんど交流がなかったが、参加チームさんの演舞を見たり、話をして、また新たなつながりを作ることができた。



5. 2021年11月 山口県徳山駅前商店街で開催されたお祭りへ参加

新曲「ともに-TOMONI-」お披露目成功！

徳山駅前商店街の皆様と、協力した運営体制のお祭りで、毎年参加している。

「コロナ禍でもできる形」を確立させており、わん！も盛り上げ、「来年もできる」ようにつなげている。



6. 2022年12月 島根県日原の道の駅にて県外演舞

わん！の演舞を見て「感動した」と道の駅で出店していた方からお声掛けもいただき、SNS を使って、島根県にある店舗紹介までできた。



【学生の未来のよさこい環境づくり】

1. 2021年9月 結人祭(きゅつとさい) ～学生と地域の人々を繋ぐお祭り～ 後方支援

山口市中心商店街で、商店街の皆さんと山口大学・山口県立大学のよさこい部学生が共同主催する祭り。その取り組みを経験した学生が卒業していく中で、祭りの運営などのアドバイスをできる関係づくりを構築している。

写真左) 例年行われている祭りの様子

写真右) 運営に携わる山口県内の大学生と交流会兼意見交換会を実施した時の様子



2. 2021年10月 5つの大学生チームと県内社会人チームを繋ぐオンライン交流会開催

→わん！～WAN～が司会・運営を担う。

いつもなら月に1回以上の頻度で会うことのできていた方々と会えなくなり、メンバーが変化していく学生と、社会人のつながりが希薄になっていた。オンラインではあるが、途切れかけた繋がりをつなぐことができた。



3. 2021年10月 北九州市立大学「灯炎」演舞会 共同企画



イベントや祭りが開催されず、「踊る場」を失った学生たちが、自分たちのステージを作る経験の手助けとなるよう、共同企画を遂行した。

4. 2021年11月 山口県立大学「奄美連合萩組」演舞会 共同企画

大学生チームは1～3年生(3年生は今の時期に引退)することが多い。今の1・2年生は一度も「祭り」や「イベント」を経験したことのない子ばかり。「よさこいは踊るだけではない」ことを感じてもらうために、学生と協力して、イベントを開催した。



★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

【地域と祭りPRができた】

本来ならば、「祭り」が各地で開催され、中国九州各地から多くのよさこい人が集結し、参加していた祭りがコロナの影響により、祭りの存続が途絶えかけている現実の中で、「風化しない・途絶えさせない」ために各地イベントや祭りにできるだけ参加した。わん！が参加し、演舞することで、「またここに来たい」「また演舞を見たい」という観客の声も実際にいただいた。また、主催者の方々にも「また踊って盛り上げてほしい」という声もいただき、自分たちの踊りを通して、イベント開催地の活性化と山口県のPRをすることができた。

また、オフラインでは距離や日程上今まで参加できていなかった「にいがたそうおどり」祭りにも、オンライン開催により初めて参加することもでき、今までにはなかった新たなルートでの山口県のPRをすることができた。実際にまだ山口県へ来たことがない方にも「山口県へ旅行に行ってみよう」という声や、「山口県で開催される祭りにも参加してみよう」という声もいただいた。

また、コロナ禍でも練習指導依頼をいただき、他チーム内部に入ることで、わん！メンバーから、当該チームを盛り上げることができ、活性化に火をつけることができた。

★ 苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

コロナ禍でモチベーションが下がっている地域の方やよさこい人に火をつけることは難しく、模索しながら活動した。思いはあっても行動し、形にすることが難しい環境下で、できることを見つける作業に手間取った。しかし、この環境下でも思い続ける人がかける思いの強さに後押しされ、私たち自身も勉強になった。

今後は、よさこいのネットワーク以外の地域の方との関係をもっと深くつなげていく必要があると感じている。また、「街おこしをしたい」と考える同世代の仲間を増やして、様々な視点から見る「地域活性化」の課題と糸口を見つけていきたい。

また、子供たちとの関わりをさらに強くつくり、よさこいを通して、街が好きになったり、住み続けたいと思ってもらう環境を作りたい。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

◎ 相対でできるコミュニケーションの機会

企画ができた「ワカツナ EVENT」を実際に開催で来ていたら、個々の活動が、いろいろな展開を生むことができたのではないかと思う。オンライン上で何度も話すことはできたが、一度は顔を合わせたい。

◎ 若者同士の異なるコミュニティの方々をつなげる機会として、素敵な場だった。お互いの経験やつながりから、他団体の紹介やコラボレーションができるとうれしい。例えば、違うジャンルの方々からみて、よさこいにできる可能性のヒントや、アイデアを生むような機会があると、刺激になってよいと思う。

